

みなさん、はいさーい！沖縄の方言でこんにちは、という意味です。

私は生まれ育った沖縄が大好きで、19年間バスガイドという仕事を通して沖縄についてたくさんの方に様々なことを伝えてきました。在籍中は、私鉄沖縄として連合沖縄の平和行動 in 沖縄のピースガイドで、沖縄の戦跡コースを連合愛知の方にご案内したこともあり、そのご縁で今ここで話している事ができています。

皆さんは沖縄へ来たことがありますか？

皆さんは沖縄というどのようなイメージがありますか？

今日はこれから話をさせていただきますが、聞いていただき色々なことを想像して欲しいと思います。

沖縄と言えば…青い海や赤やピンクのハイビスカスの花、緑豊かな自然遺産のヤンバルの森、首里城、沖縄そばやゴーヤーチャンプルー、サーターアンダギーなどの食べ物…明るいいり조트観光を想像したかと思います。

どうでしょうか、今イメージを聞かれて『戦争』を思い浮かべた方はいますでしょうか。

那覇空港から南へ20分ほど走ると青い海と緑のサトウキビ畑が広がる景色が見えてきます。

サトウキビは沖縄の方言でウージと言います。島唄を思い出した方もいると思います。歌詞は知っていますか？この歌は沖縄戦の事を歌っています。

『デイゴの花が咲き風をよび 嵐が来た。繰り返す悲しみは島渡る波のよう。

ウージの森であなたと出会い ウージの下で千代にさよなら。』

デイゴの花が咲いて戦争がきた。サトウキビの森であなたと出会い、ウージの下で永遠にさようなら。

そして今ちょうど沖縄では赤いデイゴが咲き始めています。

歌詞の「サトウキビの下」とは、地下の洞窟のこと。沖縄ではガマといいます。

戦争の時は、地上から降り注ぐ弾雨の中を逃げまとい地下の洞窟、ガマに避難した人々が多くいます。そのガマで千代にさようなら。永遠にさようなら…

真っ暗な洞窟ガマの中、傷の治療も受けられず水を求めながら苦しみ絶命した人、あるいは故郷の家族を恋人を思い出しながらひっそりと命絶えた人、そして地獄の戦場を生き抜いた人がいました。

戦闘機から雨霰のように弾が落とされ、海からは艦砲射撃。陸では銃や戦車からの攻撃、火炎放射器で町や人が焼かれていく。

「日本で唯一の住民を多く巻き込んだ地上戦」と言われる沖縄戦は、1945年3月26日、本島周辺の島々に上陸を開始し、その後沖縄本島には4月1日上陸をしてから3ヶ月余りの戦いでした。

その間で日米両軍20万余りの方が亡くなり、うち日本軍（沖縄出身者、他都道府県出身兵）は94,136名、沖縄一般県民は94,000名。

実に沖縄県民の4人に1人の割合で亡くなったとされ、今でも土を掘れば、不発弾が見つかり、日常のニュースの一つとして沖縄では報道されていますが、その処理にはまだ70年以上はかかるであろうとされています。

戦後80年経った今でも、遺骨や遺品も見つかります。

戦争に行って亡くなった兵隊さんの家族に届いた骨壺の中には、骨ではなくサンゴのかけらや沖縄の石だった、という所もありました。まだ沖縄の土深く眠っている遺骨があるということです。たった3ヶ月の戦闘の代償はあまりにも大きく、小さな島の沖縄に残り続けています。そして、その悲惨な戦争を乗り越えて語り継いできた先輩方が守ってきた平和の上で、私たち今生きています。

その語り継いだひとりに、日比野勝廣さんがいらっしゃいます。

愛知県北名古屋市出身で当時20～21歳。沖縄戦中に右腕を負傷し、南部のガマ『糸数アブチラガマ』では傷が悪化し破傷風にかかり、助かる見込み無しとして、一度も治療をしてもらえず暗いガマで、傷口にわくウジの痛みと痙攣。死んでいく兵士たちのそばで生死を彷徨いながらも、命が繋がり生き抜いた方です。

戦争が終わった、と聞いて日比野さんがガマを出たのは1945年8月22日の事です。

日比野さんが生きて戦後、戦争の悲惨さを伝えてくれたのでその現状を知る事ができます。日比野さんは戦後少なくとも沖縄に110回訪れ、そのたびにガマ来ては慰霊碑の前で『不幸にも、僕だけ生きて帰って悪かった。今度産まれてくる時には、戦争のない平和な時に産まれてこよう』と、死んでいった戦友たちに語りかけていたそうです。『不幸にも…』『自分だけ生き残ってごめんなさい…』戦争体験者はよくこう言います。日比野さんも、戦後すぐに戦友の遺族を訪ねて最後の様子を伝えようとしたら「あなたは要領よく逃げたのね」と言われたそうです。

日比野さんは「死ぬのは簡単、生きるのが苦しい」と言っていました。

悲惨な戦争乗り越えてもなお、戦後も辛い思いを抱えながら、生き続けなければならなかった人々がいたこと。

そしてその人達が『2度とあのような戦争を起こしてはいけない』と強く守り続けていたから『戦争のない平和な今』があるということを忘れてはいけません。

みなさんの思う平和とはなんですか？

戦争が無いことが平和。もちろんそうですが…

平和とはいつも通りの日常が過ごせること、なのではないでしょうか。

ご飯を食べて、眠って、起きる。当たり前のことができることが平和なのではないでしょうか。

家族や恋人と過ごすことができる事も、好きなものに時間やお金をかける事ができるのも、自分を主張し発言ができるのも全て平和でなければできません。

学生さんからこんな質問をされたことがあります。「平和のために何をしたらいいですか？」皆さんならどう答えますか。

「平和のために何をしたらいいのか」と考えている所から、既に平和について行動しているのではないのでしょうか。

1人だけの力では戦争をなくす事はできないかもしれませんが、大勢が集まれば大きな力になり平和を守っていく事ができると思います。

『平和なくして労働運動無し』

日々のお仕事も、平和でなければできませんし、仕事ができなければ生活ができません。人々が集まり声を上げることもまた、平和でなければできない事です。

これまで守られてきた平和を、次は戦争を知らない私たちが守っていかなければなりません。

今を生きる私たちだけでなく、これから続くあなたの子供、孫、まだ見ぬ未来のために。未来を『想像』してください。

過去を学び、未来を想像する事が平和に繋がるはずです。

今日ここにいる皆さんから、平和が繋がって行くことを願い沖縄からの報告とさせていただきます。

ありがとうございました。

2025年5月17日 多和田 貴野